
































週間市場レポート (2021年6月7日~6月11日)

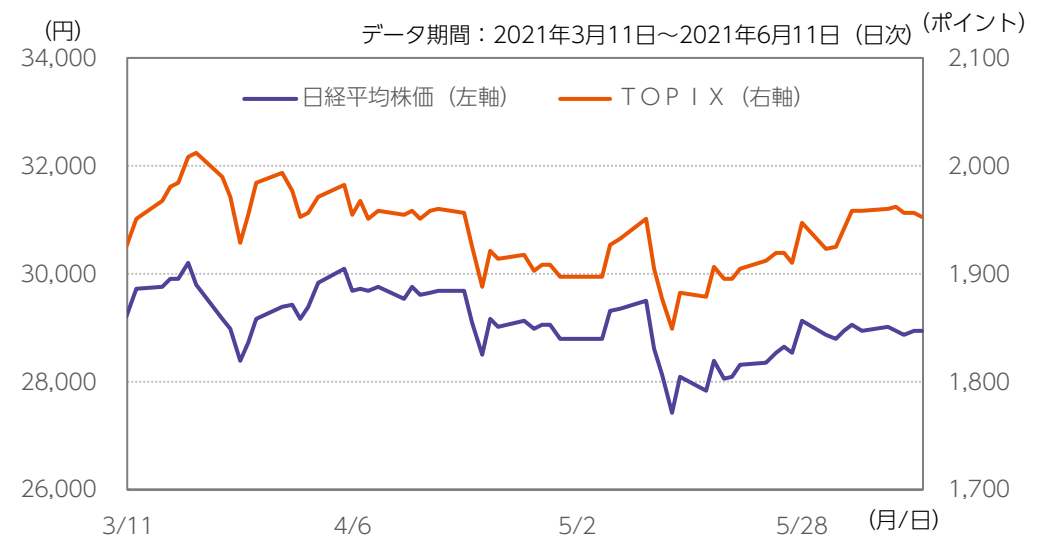
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2021/6/4	先週末 2021/6/11	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		28,941.52	28,948.73	0.02 
TOPIX (東証株価指数)		1,959.19	1,954.02	▲0.26 
ダウ工業株30種平均 (ドル)		34,756.39	34,479.60	▲0.80 
S&P500種指数		4,229.89	4,247.44	0.41 
ナスダック総合指数		13,814.49	14,069.42	1.85 
ユーロ・ストックス50指数		4,089.38	4,126.70	0.91 
S&P/ASX300指数		7,287.92	7,307.54	0.27 
上海総合指数		3,591.85	3,589.75	▲0.06 
MSCI AC アジア (除く日本)*		1,072.96	1,072.63	▲0.03 
東証REIT指数		2,104.77	2,149.33	2.12 
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		857.82	878.67	2.43 
ASX300 REIT 指数		1,529.90	1,566.10	2.37 
グローバルREIT (除く日本)*		202.14	207.64	2.72 
日本10年国債 (%)		0.087	0.035	▲0.052 
米国10年国債 (%)		1.553	1.452	▲0.102 
ドイツ10年国債 (%)		▲0.213	▲0.274	▲0.061 
英国10年国債 (%)		0.790	0.708	▲0.082 
ドル/円		109.52	109.66	0.13 
ユーロ/円		133.21	132.80	▲0.31 
英ポンド/円		155.04	154.74	▲0.20 
豪ドル/円		84.77	84.52	▲0.30 
フィラデルフィア半導体指数		3,214.14	3,210.06	▲0.13 
WTI原油先物 (ドル)		69.62	70.91	1.85 
CRB指数		210.29	212.25	0.93 

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

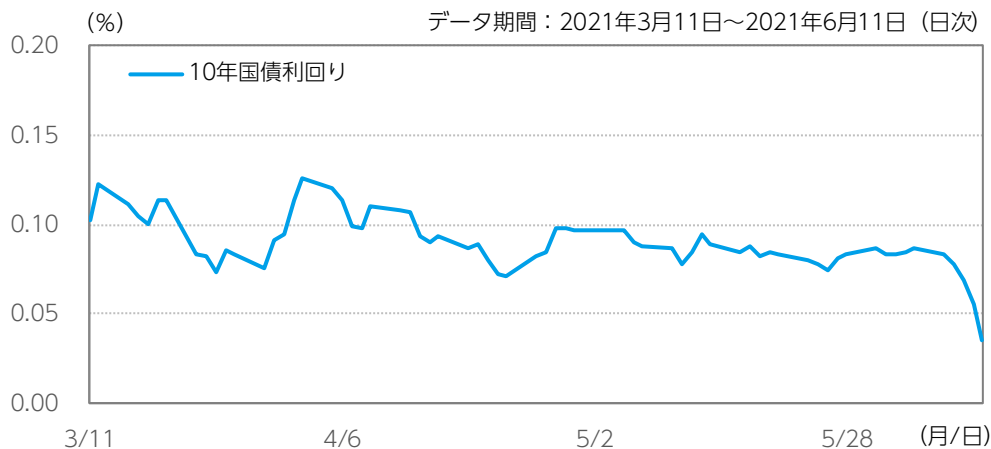
日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。米長期金利が低下し、前週末の米国株式市場でハイテク株を中心に買われた流れを受け、週初は上昇しました。5月の米消費者物価指数（CPI）の公表を10日（木）に控え様子見ムードが高まる中、心理的な節目である2万9,000円を超えた水準では、利益確定を目的とした売りに押されました。週末は、米CPIは市場予想を上回ったものの、インフレ率の上昇は一時的との見方が市場に広がり、米国で金融緩和が長期化するとの期待から上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

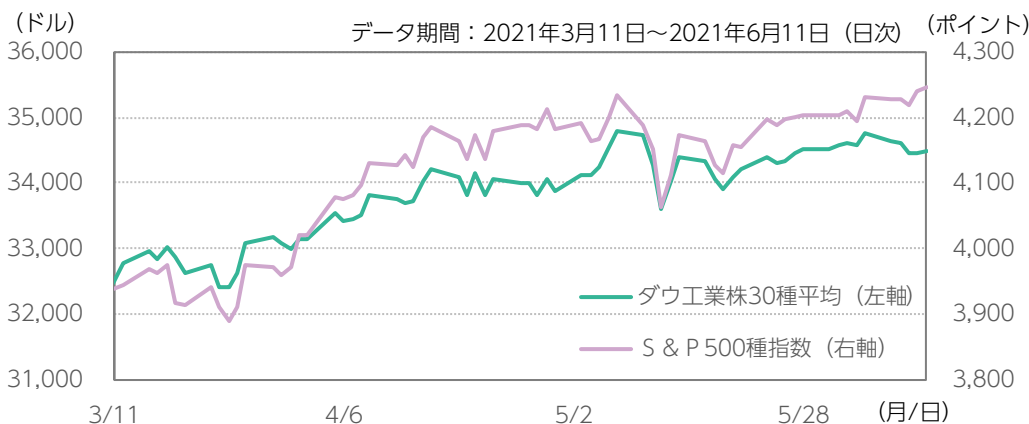
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下となりました。
米連邦準備制度理事会（F R B）が量的金融緩和の縮小を急がないとの見方から、米長期金利が低下基調となっている流れを受け、国内金利も週を通じて一時、約5ヵ月ぶりに水準となるまで低下となりました（価格は上昇）。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

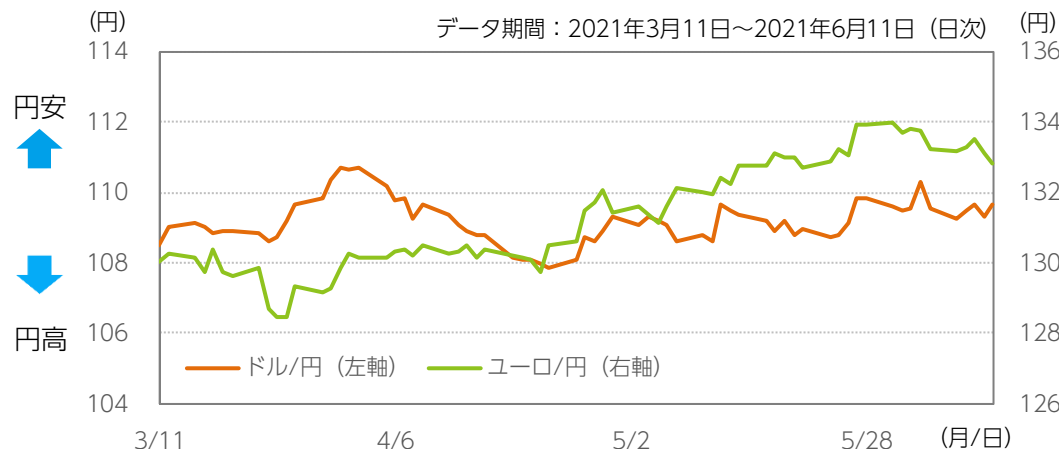
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で小幅に下落となりました。
NYダウは史上最高値に近づいていることから、高値警戒感による売りと、5月のCPIの発表を10日（木）に控え、持ち高調整の売りが優勢となりました。週後半に公表された主要経済指標が市場予想を上回ると、個人消費を中心に米国景気が順調に回復しているとの見方が広がり、週末まで上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で横ばいとなりました。
米長期金利が低下傾向にあることから、日米金利差の縮小を意識した円買い米ドル売りが進む一方、円高に振れる局面では、国内輸入企業などの実需勢からとみられる円売り米ドル買いもあり、週間ではほぼ横ばいとなりました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、5月の米CPIの発表を控え様子見ムードから、週末まで方向感の出にくい展開となりました。CPIの結果などを受けて、米国で金融緩和が続くとの見方から、週末にかけて日米両市場ともに上昇しました。

5月のCPIは市場予想を上回ったものの、特定品目の上昇による影響が大きく、足元のインフレ率の上昇は一時的との見方から、株式および債券市場の反応は限定的でした。

今週は、15～16日の日程で米連邦公開市場委員会（FOMC）が開かれます。市場では、F R Bによるテーパリング（金融緩和縮小）の開始時期について注目が集まっています。F R Bは金融緩和姿勢の継続を強調しているものの、一部の高官は資産購入規模の縮小について、いずれかの時点で協議する可能性を示しています。FOMCの結果と会合後のパウエル議長の会見を見極めるため、今週の株式市場は週後半まで値動きの乏しい展開となりそうです。FOMCに波乱がなく、金融緩和の長期化が再認識されることとなれば、株式市場は週末にかけて上昇する可能性もありそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>